



## アイディアの出し方

アイディアをどう生み出せばいいか悩んだことはありませんか。

文化祭や学園祭で「一生の思い出に残るような企画を考えたい！」けれど、どうやって考えたらいいかわからないという方に、アイディアを生み出す方法をご案内します。



### 1. 事前準備をしよう ～1人で考える～

文化祭のイベントを考える時、最初は、クラスで話し合う方法が考えられます。ただ、いきなり「アイディアを発表してください！」と言われても、良い案は出てこないものです。



まずどんなイベントがあるのか、前もって調査することが大切です。下記に記載した本やホームページ等で調べたり、他の学校の文化祭に実際に足を運んで、情報として集めておくと参考になります。

#### 図書館にある本や新聞を参考にする

##### 『必ず盛り上がる文化祭ガイド』

森俊二・望月一枝・内田理／編著 学事出版 2014 (374/47/6)

文化祭の企画と合わせ、文化祭を行ううえで注意したい事項なども掲載されています。

##### 『やさしくわかるデジタル時代の著作権2 学校編』

山本 光／監修・著、松下 孝太郎／著 技術評論社 2019 (020/ヤ/2)

文化祭でコピーバンドをやってもいいのか？など、著作権の観点から参考になる情報が掲載されています。

##### 『高校生新聞』 高校生新聞社 (N//346)

毎年10月号で文化祭や学園祭が特集されています。参考にしてみましょう。

#### インターネットで調べてみる

アオハル「他クラスと被らない！ちょっと変わった文化祭の出し物9選」

[https://ao-haru.jp/school\\_life/bunkasai-dashimono/](https://ao-haru.jp/school_life/bunkasai-dashimono/)

模擬店編、クラス編、ステージ編の三つの面から、他と被らない「少し定番から外れた面白い出し物」を紹介しています。

## 実際に文化祭に行ってみる

ポスターやインターネットで確認して、他の学校の文化祭に行ってみましょう。  
進学・受験を予定している学校に行くのもオススメです。

## マインドマップを使ってみる

情報を得て、自分なりのアイデアが浮かんできたら、「マインドマップ」を使って簡単に整理してみましょう。まず、紙と、カラーペンを用意し、中心に、例えば、「新感覚！文化祭のイベント」と記入。連想されるアイデア、キーワードを枝葉のように書き足していきましょう。

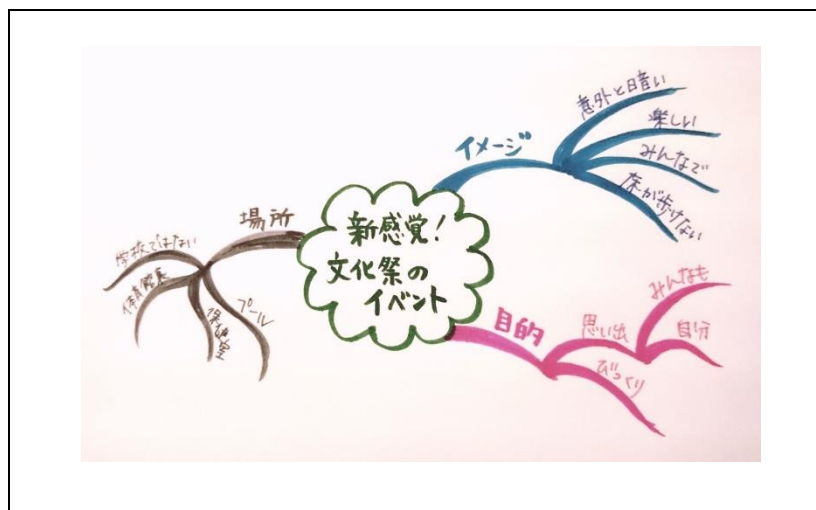
### 「マインドマップ」とは？

トニーブザン氏が提唱した発想法の一つ。頭の中に浮かんだたくさんのアイデアを目に見えるように整理することができます。

『勉強が楽しくなるノート術』トニー・ブザン／著 ダイヤモンド社 2006

(141/5/269) マインドマップの作り方や、それを使ってできることなどが書いてあり、理解を深めることができます。

※マインドマップのイメージ図



紙に書き出すことで、頭の中が整理されます。また、書き出していく中で新しいアイデアが浮かびやすくなります。自分のアイデアをまとめておき、みんなで話し合う時に参考にしましょう。

アイデアをまとめる方法については、「3. アイディアの発想法について、深く知ろう」でもご紹介しています。自分に合うやり方を探してみてくださいね。

## 2. イベントを企画しよう ～みんなで考える～

アイデアの整理ができれば、みんなで文化祭のイベントについて話し合みましょう。

### ブレインストーミングをやってみよう

イベントのアイデアをとにかくたくさん出していきます。

もう出ない～！と思ったところからさらにアイデアをしぼり出します。

それによって、今までにないような意外で面白いアイデアが出てくるかも！？

#### 「ブレインストーミング」とは？

新しいアイデアを生み出すための方法の一つです。『ひらめきとイノベーションの授業』 慎 泰俊／著 ダイアモンド社 2013（141／5／365）が参考になります。

#### 【ブレインストーミングのルール】

- ① 人の意見に対して絶対に批判してはいけません。
- ② 面白くて、変なアイデア大歓迎。
- ③ 質より量重視！とにかく、たくさんアイデアを出しましょう。
- ④ 便乗アイデア OK！既に出たアイデアを利用し、別のアイデアを考えましょう。

#### 【やり方】

大きな模造紙かホワイトボード、ふせん、ペンを用意します。グループごとにルールを守りながら、テーマに沿ったアイデアを出し合います。出されたアイデアは1つにつき1つのふせんに書いていきます。

文化祭のイベント案を出してもらうときには、具体的な目的や目標、基準を提示しておく、グループ内の話し合いがより深くなります。

時間を決めて、まずは、目標として100個アイデアを出してみましよう。

### アイデアをまとめよう

模造紙に貼られたたくさんのアイデアを見渡してみましよう。似たものをまとめてみたり、共通するところを線で結びつけたりして、いろんな角度から整理していきましよう。

アイデアを、組み合わせてみよう  
アイデアを、分割してみよう  
アイデアを、小さくしてみよう

まとまりがいくつかできたら、さらにそれを一つにまとめられないか考えてみましよう。一見、結び付かないようなものでも、組み合わせてみると、新しく面白いアイデアとなることがあります。

<参考になる資料>

『ビジュアル ビジネス・フレームワーク』堀 公俊／著  
日本経済新聞出版社 2013 (336/2/287)

『「超」発想法』野口 悠紀雄／著 講談社 2003  
(141/5/232)



### 3. アイディアの発想法について、深く知ろう

アイディアの発想法についてもっと知りたいときは、こんな本を読んでみましょう。

『発想法』川喜田 二郎／著 中央公論社 1992 (141/5/33)

KJ法というアイディアをまとめる方法を提唱した第一人者です。発想したものをどう整理するか、その方法が書かれています。

『話す力・聞く力がつく発表レッスン 3 理解が深まるディスカッション』  
梅澤 実/監修 学研教育出版 2014 (809/ハ/3)

『総合的な学習の考える力をつけよう!』齋藤 孝/監修  
PHP研究所 2016 (375/ソ/)

楽しいイラストと分かりやすい言葉で、ブレインストーミングやマッピングについて解説。発想法について、初めて学ぼうとする方におすすめです。

『「面白い」のつくりかた』佐々木 健一／著 新潮社 2019 (141/5/477)

長年、番組制作に携わり、「面白い」を追求してきた著者が、新鮮な視点から、発想法やノウハウを軽快に披露します。

『THE TEAM5つの法則』麻野 耕司／著 幻冬舎 2019 (336/3/742)

クラスでアイディアを生み出す時には、チームワークが必要です。そのために参考になる「5つのチームの法則」を紹介します。

これらの本は、アイディアを発想するとき大変参考になるものですが、方法はこれだけではありません。様々なことを学び経験を重ねていながら、自分にぴったりのアイディア発想法を身につけてください。

#### <調べる時の注意事項>

- ① 本に書いてあることも、インターネットの情報も、正確なものとは限りません。必ず、複数の本、ウェブサイトなどで確認しましょう。
- ② 自分が調べた本は、そのタイトルや出版者、出版年を、サイトはURL、確認した日などを必ず記録しておきましょう。
- ③ 福岡県立図書館には、調べもの用にインターネット情報を検索できるパソコンがあります。使用する時はカウンターでお尋ねください。

